

谷川岳・幽ノ沢V字状岩壁右ルート

--- 貸切りの幽ノ沢 ---
(2008年8月の記録)

安齋恭一

日 程：2008年8月8日(金)～10日(日)
メンバー：秋田誠、安齋恭一

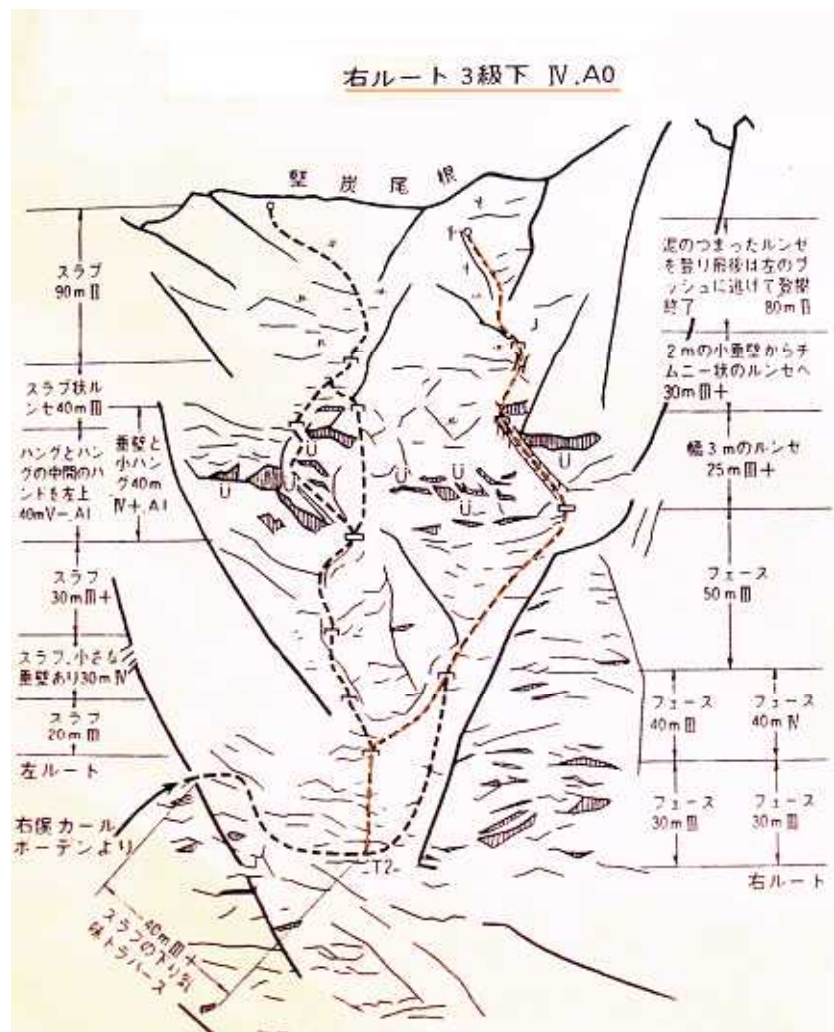
8月9日(土) 快晴

ロープウェー駅5:30 --- 一ノ倉沢出合6:15 --- 幽ノ沢出合6:40 --- T2 12:30) --- 石楠花尾根 16:30 --- 中芝新道 18:15 --- 一ノ倉岳 19:45 --- 肩ノ小屋 21:45



幽ノ沢出合に入る

幽ノ沢の出合は灌木が邪魔をして先が見えない。しかし、河原を少し入ると明るいナメ床となり開放的で気持ちの良い沢となる。雪渓は残骸が僅かに残るばかりで、沢通しに通過できた。大滝、二俣を過ぎると日差しを遮るものが無く焼かれるように暑い。スラブを適当に攀り、5メートルほどの滝下の僅かな日陰に張り付いて暑さを凌ぐ。水場はここが最後だ。滝の右に上がり、スラブを楽しむ。中ほどには古いハーケンも数本打たれており、かなり下からV字壁のT2を目指して直上しているようだが、ここからは届かない。結構急だったが、小川山のGammaスラブを体験していたため、比較的冷静に登れた。しかし、時間がかかってしまいT2から登攀を開始した頃は12時を過ぎていた。



二人とも20年以上前の記憶が頼りだが、特に苦労した覚えも無いルートなので気楽だった。か

すかに覚えているのは、前回の登攀ではガスっていたこと、登山靴だったので濡れた凹角で足元が滑ったこと、登攀終了後の草付きが急だったこと、夜なべの中芝新道の下りが悪かったこと位。その他のルートの記憶は無かった。

思ったとおり、ルートは特に問題も無く、すっかり乾いているため快適であつが、またとない好天のため、ホールドは焼けるように暑く、日陰も無く二人で3リットルの水でも十分ではなかった。ルート図の4ピッチ目のテラスで昼食をとり、もう1ピッチと思い登攀を開始する。しかし、昔は不安定ながらバケツ状のステップが掘ってあった草付きはすっかり落ちていて、草混じりの岩場は思ったより悪く、岩の上の細い草1本でも踏むと思ひもよらないほど滑るので、草を巻き込まないように慎重に足場を選び草を掻き分けて足を置くように攀じた。2畳位のまったく平らなテラスに辿り着いた時は正直ほっとした。その先に立っている大岩の左をトラバースし上部に出たところでザイルを解く。

結果的に石楠花尾根が終了点となった。靴を履き替えて稜線を目指す。ここから堅炭尾根まで15分程度のところであったが、踏み跡がなく、右のルンゼに入った。すぐそこなので何とかかなと思つたがかなりの急登で、見通したが甘かつたことを思い知る。ルンゼは濃密な笹藪となり足場のない小滝に苦戦し、やっと抜けたと思つたら壁が出て、これを越えたらようやくゆるい草付きとなり、数分で堅炭尾根に出た。結局2時間近くもかかってしまった。振り返ると石楠花尾根が一望できる。左の藪をちょっとこいで、右の尾根に上がれば、15分だったのかなあと思うと、情けない。しかし、私にとってはこれも良き経験であつた。天気が良くてなによりだつた。



V字壁右ルート5ピッチ目

疲れた体に国境稜線の縦走路は遠かつたが踏み跡は明瞭であつた。縦走路に出たときはすっかり日も暮れて、半月が綺麗だつた。真っ暗な一ノ倉岳で休憩し、ヘッドランプを頼りに稜線を歩き21時45分に肩ノ小屋に到着した。小屋は寝静まっていたが、休んでいた馬場さんが下りてきて夕飯を準備してくださつた。これは鹿野さんのおかげ。乾ききつたへとへの身に染み入る美味しい夕飯であつた。翌日はゆっくり起きてロープウェイに向かつた。

結局、この日幽ノ沢に入ったのは私たちだけで、貸し切りであつたが、あの暑さを考えると頷ける。要所でハーケンが腐って折れ、シュリングにぶら下がっているもの、錆びて薄くなり穴の一部が開きそうになっているものなどがあり、その状態を見るとボルトもどれだけ信頼できるか確信が持てない状態であつた。新たにハーケンを打ち増ししようとしても適切なリスには折れて残つたハーケンが詰まっている。そんな中ペツルが唐突に打つてある場所が2箇所確認できたが、昨年遭難があつたと聞き、搬出用のものかと想像した。



V字壁と右俣リンネ

今回は、不慣れなダブル・ロープ、つるべでの登攀のため、ザイル操作の手際の悪さや緊張もあり、取り付いてからは身も心も余裕がなく、まったく写真が撮れなかつた。登攀はあまり困難さや恐怖は感じなかつたものの、5ピッチ目くらいで左の中指がつつた、気が付かないだけで力が入っていたようだ。色々反省点も多いが、私自身は色々な経験ができ楽しい山行であつた。

一ノ倉沢出合までの道路は8月8日から月末までの期間通行止めだつた。